



油売りとオンベとマムシの三人が農協の役員室でゴダグを並べている。いずれも「農協に用がある」と称して、畠から逃げてきた連中である。

オンベ「この相馬村などを『山の奥の方』などと弘前のマジの人達が言うけれども、大昔、平野部の方よりも山や海に近い所に人が多く住んでいたのだよ」

マムシ「田が少なくて？」

オンベ「米食以前、開田以前の時代は、山間部の住人はケダモノの肉や山菜を主食としていたんだ。海の方の人は魚を…長野県や山梨県などを見るよ。田が少ないのに…」

油売り「ところで、本県に同じ村から国会議員が二人出た所…どこだ？」

オンベ「ウーン、この相馬村と…上北郡の旧上北町か？ 森田重次郎（自民）と米内山義一郎（社会）

津島文治知事が「本県に岩木山、八甲田山のほか米内山という恐山

がある」と言ったそつだが、これは名ジョークと言われているな——」

オンベ「ところで衆議院の選挙？ 菅のネンプタでは自民党もハラハラか——」

油売り「この間の横浜市の選挙で、自分の地盤でありながら大敗したな——」

オンベ「あの人は苦勞人で努力家で首相にまでなった人だが、田中角栄のようなユーモアがない。いつも警戒しているような表情だな——」

マムシ「イギリスに於ける紳士の条件は服装とユーモアだそつだ」

オンベ「二階幹事長の人相も古色蒼然たるものだ」

油売り「二階？ 小池百合子にあやつられて」

マムシ「大島理森氏は引退するよつだが、あの人も笑顔を見せたことがなかったな——」

義信

幸福は自心に

抱くものなり

他人に求めて

不平を言う

ことは

愚かなり

内村鑑三